

## WAB 理事会の報告

2009年11月2日、アメリカ合衆国 San Diego Grand Hyatt Hotel に於いて、World Association for Bronchology Board of Regents Meeting が開かれました。出席者は理事長の Dr. Pablo Diaz-Jiménez 他 12 名、委任状が 19 通ありました。従って Bylaws により理事会は成立しました。この会議で 3 つの重要案件が審議されましたので以下にその内容を要約ご報告申し上げます。I と II に関しましては、2008 年 11 月の Philadelphia での臨時理事会で理事長から依頼された WAB の Working group (Drs. Colt, Edell, Osada, Prof. Barron) が以来 1 年近くを掛けて纏めた答申案を審議する形が採られました。

### I WCB 開催頻度について

昨年、JOB 編集長でもある Dr. Mehta から (WCB 主催希望者多数の実情に鑑み) WCB を毎年開催としてはどうかとの提案がありました。Working group からの答申内容 assignment I は「現状通りの隔年開催」でした。理由は、毎年開催では世界の経済状況を勘案すると演者・参会者数が不十分になる可能性もあり、各国・各地域の気管支学関連学会の開催に不利な影響なしとしない点、などでした。むしろ WAB は WCB 非開催年間に地域・各国の学会を支援することに力を注ぐべきだという考えです。提案者の Dr. Mehta も同意され、全員一致で答申内容が承認されました。

### II WAB 改組案

従来、WAB は個人会員制度で運営されて来ました。そして機関誌 JOB の購読に収入のほとんどを充てる構造になっていますので、財務状況は慢性赤字体質であり、本来の活動に充てる資金がない状態で推移して来ました。また、JOB は未だ「IF」を有していません。その上、会員数も 600 名程度で現行会費ではさらなる参入も期待しにくく、理事の構成比もかなり偏っているとの批判にも接していました。そこで Working group が熟考の上 assignment II を提出した次第でした。

その骨子は、

- 1-1 WAB の完全改組と名称変更 (IABIP<International Association for Bronchology and Interventional Pulmonology>とする) を提案する。
- 2-1 個人会員制度を撤廃する。
- 2-2 地域・各国の気管支学・interventional pulmonology の学会を en-bloc 会員とする。(南米、北アフリカ、スペイン、日本、アジア太平洋、アメリカ合衆国、ヨーロッパ、韓国、中国、ベトナム等々)
- 2-3 会費は個人当たり US \$5 ドルとし、傘下各組織が一括納付する。
- 2-4 会員は一つの組織から WAB に所属すべく、重複会費を避ける。
- 2-5 理事数は組織会員の数から対数計算式で相対的に算出する。
- 3-1 WAB 全体の機関誌としては JOB を放棄する。
- 3-2 WAB の機関誌として、英文で質の高い雑誌 “Respirology” (IF あり) を電子購読すべく APSR と交渉する。ただし APSR の会員権は求めないので、購読料として特別に US \$15 ドルを交渉する。
- 4-1 WAB の活動には本来の内容に加え、英語論文投稿の際に著者を援助する内容も含める。などです。

以上の内容に関してほとんど異論なく採択されましたが、新しい組織の名称に関しては、Dr. Yung や日本の理事から WAB の名を残しつつ Interventional Pulmonology を冠した WABIP が良いとの修正意見が出され、これに変更されることになりました。

電子版 “Respirology” の購読に関しての事前打診に対して APSR 理事会は、WAB がこの方針を承認するのであれば歓迎との意向を表明されています。

この方針に従って、来年（2010年）の WCB に於ける理事会までに新しい体制を整備する必要が生じた訳であります。即ち、既存の各国・各地域の気管支学会に呼び掛けこの方針での（再）参会・結集方針を「批准」して頂かなくてはなりません。例えば、日本呼吸器内視鏡学会理事会に対し、WAB から assignment II を承認して頂くよう正式に呼び掛けをするという手続きが必要になります。国際的に最大規模の日本呼吸器内視鏡学会がこれを承認され新たに組織会員として参画される場合を想定しますと、理事数に関して（計算式に従って）日本は5人の理事を送るというようになります。その際、会費として5ドルを per capita でお納め頂く訳ですが、“Respirology” 未購読者に於かれては15ドルの雑誌代金を合わせ20ドルとなる次第です（APSR 理事会はこの購読方式に関する WAB の決定を受けて仮承認の状況です）。

### III 2010年度（第16回）WCB 開催に関して

理事長 Dr. Diaz-Jiménez から、予定されていたドイツでの WCB 開催が不可能となったことが報告され、緊急対応策としてハンガリーのブダペストで開催される運びとなったことが述べられました。

事情をご説明致します。ドイツのハイデルベルグ・マンハイムで予定されていた WCB/WCBE の準備委員会は経済状況の悪化を受けて資金難に陥ったとして、既に San Diego 理事会の前に WCBE の Dr. Hörmann からキャンセルの宣言がメールで WAB 理事に送られて来ていました。状況確認のため San Diego の理事会の前日 WAB 理事会の役員会を開き、WCB の会長であった Dr. Becker から詳しい話を直接聴取しました。それに依りますと、予算の一部しか確保できず既に担当会社から会場を解約され事実上不可能となっているとの状況でした。折しも Dr. Hörmann のメールを受けて、Damascus (Syria), Granada (Spain), Shanghai (China), Abu Dhabi (UAE), Budapest (Hungary) からレスキューの申し出あり、そこで WAB 理事会役員会は理事会前夜慎重にこれを検討し、ハンガリー・グループが一昨年東京での投票で日本に僅差で2位となったこと、および開催地のローテーションから見てヨーロッパ大陸内にあることなどからハンガリーに引き受けてもらうこととしました。即刻ブダペストの Dr. Zsolt Pápai-Székely に連絡、会期を少し変更する条件でご承諾頂き、翌朝の理事会報告となった次第です。

以上、理事会の重要案件に関するご報告を申し上げます。

日本呼吸器内視鏡学会に於かれましては、WAB 改組の方向性を池田茂人先生が当初お考えであった WAB の姿に向けて変身するものをご理解頂き、どうか宜しくご批准をお願い申し上げます。そして WABIP としての新生 WAB へ挙げてご加入下さいますようお願い申し上げます。また、ブダペストに於ける 2010 年度の WCB に向けても、日本から多数のご参加を期待致しております。

（文責：WAB 副理事長 長田博昭）